

仕奉新お勤々七日辰戌申と申後雨は降中し私切指
 入仕とぬゆきの書付し若常の服居ると入仕後人の私を盗
 儀有てふ仕の持賣の鯛の取渡せし仕の右と通お遠無
 事居申事しぬも申度ゆりうし仕の申連より申上右
 魚當とて私吳名と持仕申申申定て成度語り申
 と申取ゆ名し連いあり連三井申徳と申合申詮議の上
 申入官年辰申申

日本橋(京都)江戸の道中人数

先押給

人々多し長持を掉掛人

喜綱景物 同分多し
 永井井波のり
 塩津又十席

先押給

柵橋八右衛門 恩澤源九郎 加三郎 繁城之次

一 卯三月十日漢語店を傍若身丸腰を忍び見付獄門向人
 手下五人引出 死罪よりなり

罪書付

吳名日本橋
 濱崎店を傍

はとより大勢中合員法尾張名河遠江甲斐又
 何と後行お種右八ヶ國よおめて百姓所人の多
 押入を銀とくくひ取ゆかよよつて遠見申の
 病よあを獄つしけしものなり

一 上君沼田の好女の跡多秀逸を達

一 歳聞

リハたそくそくそいよ書あるを

定あるを世よ定おたよ

右 洲威の修り

東るま沼田の

玉のりり

福

一 むり鐘

酒井雅樂頭

交保仔執事

松平傳次序

小澤平左衛門

藪主計頭

多門多之

今はむりの

松平九進右衛門

本多近江守

平井

米津

建助

小澤

本多

建助

今はむりの

松平

建助

一 延享四年外二月九日の秋外様田山門外新搦内迄

少為の風を焚火の座をたし通

大元 諏訪因幡守

松平

松平安藝守

河

相馬因幡守

小

米津信濃守

朽木

小條

大田